



あやめ池神社拝殿と奥に本殿の屋根

奈良市あやめ池南9で



蛙股池ほとりで地域守る

あやめ池神社 (奈良市)



あやめ池神社は奈良市西部、蛙股池のほとりにあります。池の守護神として市杵島姫命(弁財天)が祭られたのが始まりとされます。

蛙股池とは日本書紀607(推古15)年に「是り社寺などの横木に使われる部材の蛙股に似ており、蛙股池と呼ばれるよ

地区自治連合会が協力し、長いこと氏子組織がなげが名物。桜の時期には、境内とあやめ池新橋のちようちんに灯がともされ、夜桜が水面に映え、参拝者でにぎわいます。(奈良まほろばソムリエの会会員 大平芳枝)

の歳の冬に、倭国に高市うになりました。池、藤原池、肩岡池、菅原池のことで、現存する日本最古のかんがい用のため池とされます。東西・南北約5000坪、面積は8・6畝であり、「く」の字の池の形が、

(住所) 奈良市あやめ池南9丁目
(祭神) 市杵島姫命
野見宿禰命、菅原道真
(交通) 近鉄菖蒲池駅南口から徒歩
(拝観) 自由
(駐車場) なし
(電話) なし

約5分

「奉賛会」を立ち上げ、境内を整備しました。現在は地域の氏神様として親しまれ、守られています。大みそかから正月三日は笹酒のふるまいがあり、1月第二日曜の大とんどでは、神社すぐ下の池のほとりでおたき上げが名物。桜の時期には、境内とあやめ池新橋のちようちんに灯がともされ、夜桜が水面に映え、参拝者でにぎわいます。(奈良まほろばソムリエの会会員 大平芳枝)